

船橋税務署長賞

すべての人々が過ごしやすい未来へ

船橋市立前原中学校

第三学年

石原

杏菜

私は昨年の夏に今の家に引っ越して来た。

すると登校中に、電動車椅子に乗っている同じ年くらいの女の子をよく見かけるようになった。その女の子はいつも一人でどこかへ向かっていた。私は初めて彼女を見かけたとき、「あれ……一人？電動車椅子って一人で大丈夫なのかな？」

と不安に思い、お節介ながら声を掛けようか少し迷った。しかも、彼女が向かう方面には少し急な上り坂がある。

電動車椅子について何の知識もない私は、家に帰ってから電動車椅子について調べてみた。調べてみると、電動車椅子は自立的な移動を可能にし、手動車椅子では難しかった長距離移動や坂道、段差のある場所でも比較的容易に移動できるということを知った。しかし、電動車椅子を利用する場合でも、状況によっては介助や手伝いが必要になる場合があ

るようだ。例えば、電動車椅子は階段や、物

によつては段差を自力で乗り越えることができないため、介助者が持ち上げたり、スロープを使う必要がある。他にも砂利道やでこぼこ道では走行しにくい場合もあるようだ。

それから私は、今の町はすべての人々にとつて過ごしやすい環境になっているのか考えるようになった。そして、いざ様々な人々の立場になってアンテナを張りながら過ごしている、まだすべてではないが、スロープが使われている場所、多機能トイレがある場所、他にも音響信号機や自動ドアが使われている、でこぼこ道が少なかつたりなど、すべての人々が過ごしやすい工夫が身の回りにはたくさん詰まっているということに気がついた。このようにすべての人々が過ごしやすい環境になっているのは、税金のおかげらしい。更にもっと詳しく調べてみると、国防や警察、

消防、ごみ収集、上下水道、教育、医療、福祉、社会保障などの公共サービスは税金によつて賄われていることが分かった。

私は今まで税金にはどのような種類があり、どのようにして使われているのか詳しく知らなかったのだが、今回の出来事をきっかけに税について興味を持ち、日々生活しながら「これも税金のおかげなんだな。」

などと意識をするようになった。また、私は今まで税金に対して「負担」などのマイナスなイメージすらあったが、当たり前前に感じてしまっていた今の生活は税金のおかげだと知り、今の環境に日々感謝して生活しなくてはならないと深く感じた。税金は、「すべての人々が過ごしやすい未来」のためになくてはならない存在だと思った。またそれと同時に、もっと国民一人一人が「税金」についての知識を深めるべきだと考えた。私が将来納税する年になったら、今までの感謝の気持ちを持ち、国民の一員として誰かの笑顔や幸せのために役に立てたらいいなと思う。